

中海・宍道湖沿岸環境検討会 議事録

1.日時 令和2年9月10日(木) 14:00~16:00

2.場所 出雲河川事務所 大会議室

3.出席者

(1) 委員

佐藤 仁志(島根大学 非常勤講師)

中村 幹雄(元 島根県内水面水産試験場長)

裕見 吉晴(鳥取大学 学長顧問)

淀江 賢一郎(元 宍道湖自然館館長)

(2) 鳥取県

森 明寛(生活環境部 暮らしの安心局 水環境保全課 課長補佐)

(3) 鳥取県衛生環境研究所

安田 優(水環境対策チーム 研究員)

(4) 島根県

原 颯太郎(農林水産部 水産課 漁場環境・内水面グループ 主任)

狩野 好宏(環境生活部 環境政策課 宍道湖・中海対策推進室 企画幹)

(5) 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川国道事務所

武内 慶了、細田 佳男、村松 清、河上 忠、三原 康宏、高橋 広行、藤原 圭吾

(6) 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川国道事務所 中海出張所

北川 克治

(7) 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川国道事務所 大橋川出張所

江島 悟

(8) 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川国道事務所 平田出張所

中村 正三

4.議事概要

【資料1】令和元年度 沿岸環境検討会での意見対応について

○中村委員

(質問)

- ・前回委員会での意見が簡略化されているため、ここで記載されなかった質問に対して回答を検討してほしい。

→事務局回答：前回委員会の未回答分については、個別にご報告させていただく。

【資料2】整備箇所モニタリング計画について

○佐藤委員

(質問)

- ・鳥類調査の頻度を教えてほしい。

→事務局回答：頻度は施工後3年後に1回である。

○佐藤委員

(質問)

- ・1回のモニタリング調査で十分なデータが得られるか疑問である。

→事務局回答：事後調査は3年後を目処に実施しており、モニタリング結果をご確認いただいた後、ご意見をいただきたい。

【資料3】令和元年度浅場・覆砂工事实施箇所について

質疑無し。

【資料4】令和2年度浅場覆砂工事实施予定箇所について

○中村委員

(質問)

- ・林2地区における漂砂を懸念している。浅場造成後、大幅に砂が流出しないか別の箇所で試験できないか。そうでなければ、砂が落ち着くことを別のやり方で確認してほしい。

→事務局回答：方法等について検討する。ご指導をお願いしたい。

- ・浅場造成した後の調査や造成前の工夫を検討してほしい。3年後のモニタリングでは、その間の期間の状況がわからないため、造成後からモニタリングすることが望ましい。造成後からのモニタリングは、実施の必要がある調査項目、場所で行い、すべての地区において実施する必要性はない。浅場整備において、意見する場を設けてほしい。

→事務局回答：方法等について検討する。ご指導をお願いしたい。

○栢見委員

(意見)

- ・林2地区は西から東へ漂砂することを考慮して、西側突堤形状をL型にしたものとする。時間が経てば中央が侵食されるだろう。
- ・林2地区においては浅場造成によって碎波され、背後の岩盤に当たって生じる反射波の影響が軽減されることが期待できる。

(質問)

- ・東側の突堤を越えて漂砂する可能性があるため、事後調査の際は、目視でよいので突堤より東側を調査範囲として入れてほしい。

→事務局回答：ご意見を踏まえて、モニタリング調査を検討する。

○國井委員

(質問)

- ・米子湾の覆砂距離及び面積については、箇所毎に記載したほうがいい。

→事務局回答：次回より箇所毎に記載する。

【資料5】令和元年度モニタリング調査およびその結果について

○中村委員

(意見)

- ・確認されたヤマトシジミの量が他の漁場に比べ多いのか少ないのかを把握すべきである。
- ・林3地区は、過去に浅場造成した砂が流出した場所であるため、今後の整備では漂砂対策を行ってほしい。現存する突堤の延長線にブロックを設置すると消波効果があり、砂が維持されると考えている。

- ・林地区は林 1,2,3 と分かれているが、一連として整備を検討してほしい。うまくいけば、林 1~3 地区に連続した砂浜が形成されると期待している。
- ・浅場造成は砂を整備箇所へ留め、その効果を期待することが前提であり、浅場造成後の砂が留まらないのであれば、留まるよう対策を考えるべきでないか。
- ・元々浅場造成は、中海の漁業振興を目的として塩分躍層の上に浅場を作るとことで始まったものである。現在、宍道湖の浅い箇所に砂を入れているが、効果を出すのが難しい。
- ・浅場造成がどう水質浄化に繋がるかを説明するのは難しいのではないか。

(質問)

- ・ヤマトシジミは個体数のみでなく、湿重量の増減についても資料内にて記載すべきである。
→事務局回答：資料内の表現を検討する。
- ・美野地区については、底質が砂礫であり、泥が堆積していないため、浅場造成の効果について疑問が残る。ヤマトシジミは造成前でも比較的生息しているように見える。また、船の出入りもあり、整備箇所としてどうか・美野地区より先に林 3 地区の施工を行ってほしい。
→事務局回答：ご意見を踏まえ、今後の整備の順序等を検討する。

○栢見委員

(意見)

- ・投入した土砂に対し浅場整備箇所では 9 割減少、5 割減少といった表記をしているが、それは覆砂を行った地点での結果である。東西に漂砂し生物の生息環境が改善した可能性もあるため、単に減少したという表現ではない方が良いかと思う。
- ・生物の調査に関して、漂砂によって調査地点以外で生息環境が創出されている可能性もあるため、地域全体として評価したほうが良いのではないか。
- ・浅場造成は、護岸を守る目的ではなく、生物の生息環境への改善効果を期待し行っている。仕様設計であれば、漂砂している現況は失敗といえるが、性能設計という観点から言えば、漂砂し生物の生息環境が広がった現状でもいいのではないか。

(質問)

- ・土砂収支はどのように計算したのか。
→事務局回答：土砂収支は、平均断面法にて算出している。
- ・施工直後の断面図の測量結果について、沖合はどこまでの範囲を出しているか。
→事務局回答：図に示す範囲である。(護岸から沖合 50m 程度)

○國井委員

(意見)

- ・浅場整備事業は、水質浄化、生物の多様性、景観等の面からコンクリートでなく遠浅の湖岸にしたという背景がある。そのため、砂が流出しないよう閉鎖的な環境にするのではなく、開放型の突堤を作っているため、砂が流出するのは仕方がないだろう。
- ・広域的な評価は現状難しいが、検討すべき課題として残しておくべきであろう。

○佐藤委員

(意見)

- ・浜佐田地区は元々鳥類が多くみられる場所であったため、事前・事後の結果が大きく変わらなかったのだろう。

(質問)

- ・林2地区については鳥類確認一覧表が記載されているが、浜佐田地区にはないのか。
→事務局回答：資料に確認一覧表を追加する。
- ・鹿園寺地区では元々鳥類が少なかったが現在増加している。鹿園寺地区と、類似の環境の未整備箇所とを比較してはどうか。
→事務局回答：整備箇所と未整備箇所の比較については、手法等についてご相談させていただきたい。

(次年度以降の新生堆積物調査の実施について)

○国井委員

(質問)

- ・5回測定した平均値を記載しているが、標準偏差を出す等、数値の処理の仕方を考えたほうが良い。
→事務局回答：データ表記について今後検討するが、次年度も新生堆積物調査を継続し、再度ご意見を伺う。

○中村委員

(質問)

- ・新生堆積物は上から沈降するものを指す。日によるばらつきがあり、風による横方向の移動もあるため、測るのは簡単でない。測点2で高かったのは、偶然とも考えられる。
→事務局回答：まずは新生堆積物調査で計測の5回の生データを確認する。

7.その他

○中村委員

(意見)

- ・過去の浅場実施整備箇所の検証（環境改善効果、問題点の整理）を行うこと。

(質問)

- ・検討会の議事録を作成してほしい。
→事務局回答：議事録を作成する。